

令和 5 年度 後期学校評価アンケート結果分析

京都市立開晴小中学校

後期学校評価アンケートにご協力いただきありがとうございました。アンケートの集計結果につきまして、項目ごとに以下にまとめております。「実現度」の低い項目については、今後の課題と受け止め、優先的に取り組みを進めてまいります。

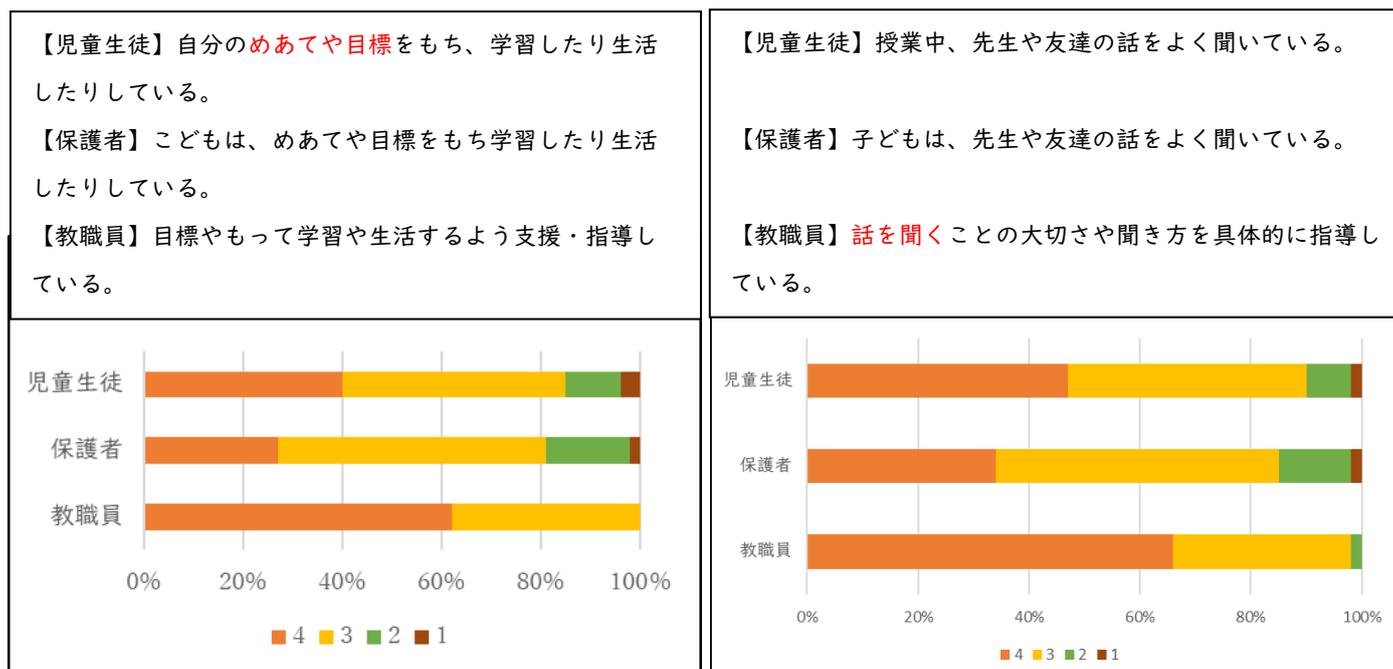
また、自由記述欄につきましても、様々なご意見を頂戴いたしました。すべて保護者の皆様の貴重なご意見として受け止めさせていただきます。ただ、頂戴したご意見は多様で、そのまますべてを実現することは出来かねますこと、ご容赦いただきますようお願い申し上げます。アンケートには書ききれなかったご意見等がございましたら、電話や学校メールにてお聞かせくださいますようお願いいたします。

なお、この結果につきましては学校運営協議会理事会の皆様にも供覧し、ご意見をいただいた上で、本年度後期の結果として報告いたします。

令和 5 年度後期 児童生徒、保護者、教職員アンケートの結果

グラフの見方

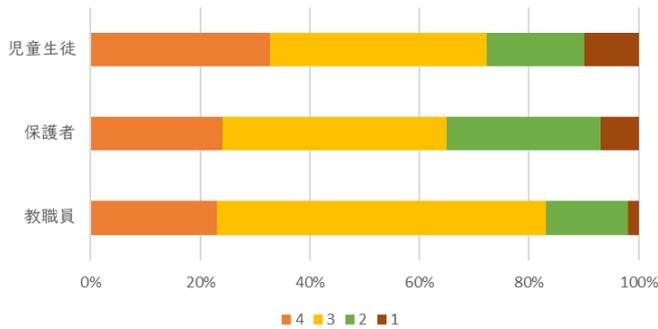
横軸の帯の色は左から 4 「そう思う、できている（オレンジ）」、3 「ややそう思う、ややできている（黄）」、2 「ややそう思わない、ややできていない（黄緑）」、1 「思わない、できていない（茶）」を表している。また読書量の児童生徒及び保護者の項目では、4 「月に 10 冊以上（オレンジ）」、3 「月に 4 冊以上 9 冊以下（オレンジ）」、2 「月に 1 冊以上 3 冊以下（黄緑）」、1 「読んでいない（茶）」を表している。



【児童生徒】おたより帳やスケジュール帳を使って、自分で計画を立て、進んで学習している。

【保護者】こどもは、おたより帳やスケジュール帳を使って、計画的・主体的に学習している。

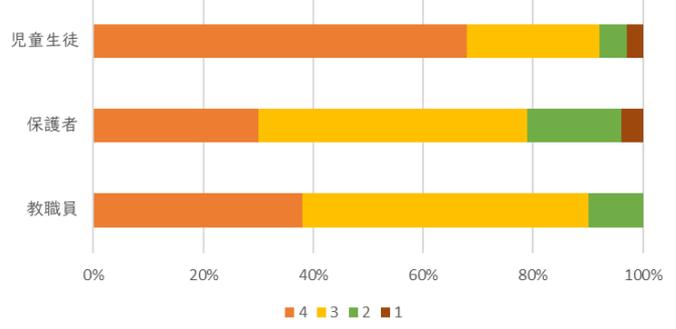
【教職員】おたより帳やスケジュール帳を使って、計画的・主体的に学習できるよう指導している。



【児童生徒】タブレット端末などで、インターネットを使うときのルールを知っている。

【保護者】こどもは、タブレット端末などで、インターネットを使うときのルールを知り、守っている。

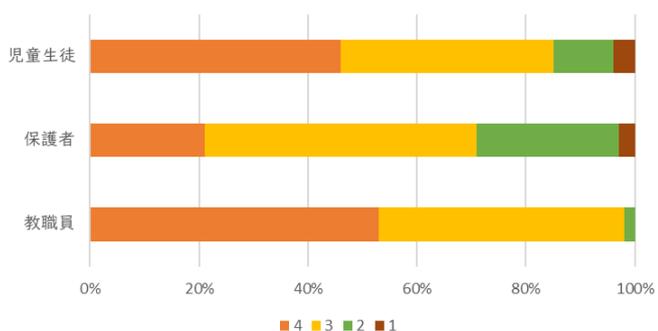
【教職員】インターネットを使うときのルールなど、タブレット端末を正しく使えるように指導している。



【児童生徒】苦手なことや難しいことにも挑戦し、あきらめずに取り組んでいる。

【保護者】こどもは、苦手なことや難しいことにも挑戦し、粘り強く取り組もうとしている。

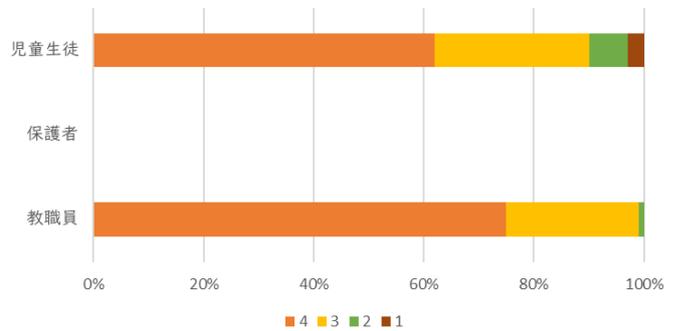
【教職員】苦手なことや難しいことにも挑戦し、粘り強く取り組む態度を養っている。



【児童生徒】自分には、得意なことや、よいところがある。

【保護者】※該当項目なし

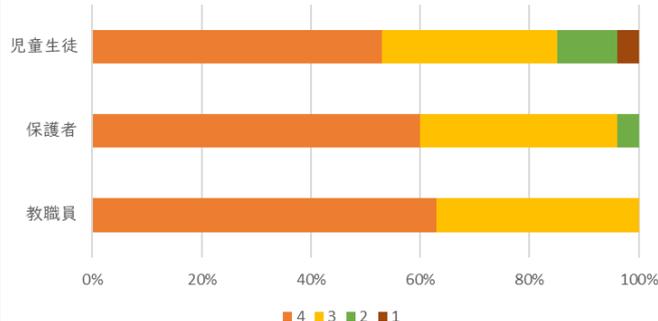
【教職員】子どものよさを積極的に見つけ、褒めたり認める声かけをしたりしている。



【児童生徒】人のいやがることをしたり、悪口をいったりしていない。

【保護者】子どもは、友達を思いやり仲良くしている。

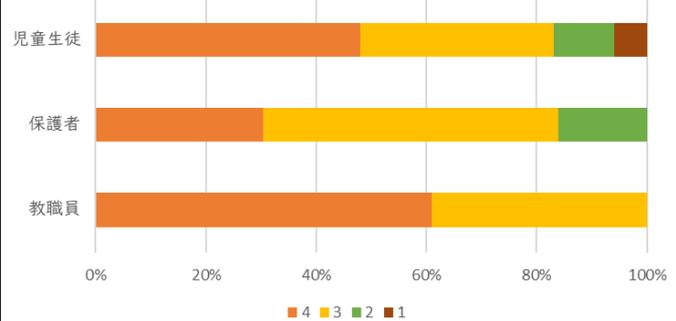
【教職員】人権を基盤とした人間関係を築こうとする心情を育てている。



【児童生徒】自分から進んであいさつをしている。

【保護者】子どもは、しっかりとあいさつをしている。

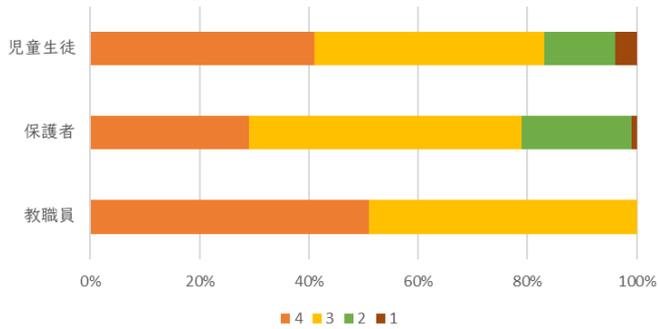
【教職員】気持ちよく挨拶しようとする態度を養っている。



【児童生徒】 そうじやお手伝いなど、**進んで人のために**役立つことをしている。

【保護者】 子どもは、**進んで人の役に立つこと**（お手伝いなど）をしている。

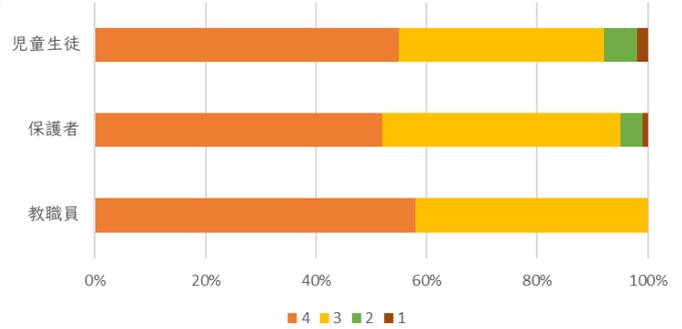
【教職員】 奉仕の精神や勤労意欲を養っている。



【児童生徒】 **学校や社会のルール・マナー**を守っている。

【保護者】 子どもは、**学校や社会のルール・マナー**を守っている。

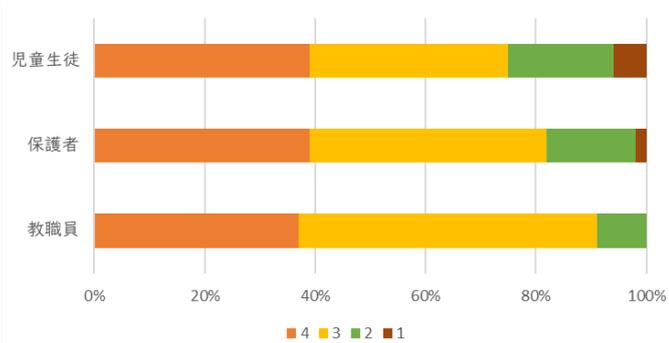
【教職員】 **学校や社会のルール・マナー**を守るなどの規範意識を養っている。



【児童生徒】 **早寝・早起き・朝ごはん**など、規則正しく生活をしている。

【保護者】 子どもには、**基本的な生活習慣**（早寝・早起き・朝ごはん等）が身に付いている。

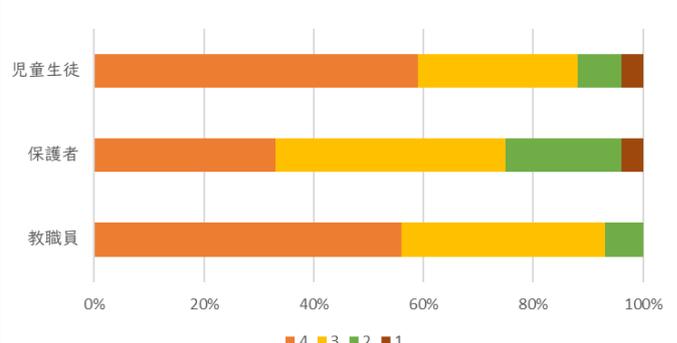
【教職員】 **基本的な生活習慣**が定着するように子どもや家庭に働きかけている。



【児童生徒】 できるだけ**好き嫌いせず、感謝して給食**を食べている。

【保護者】 子どもは、**好き嫌いせず**に感謝して給食を食べている。

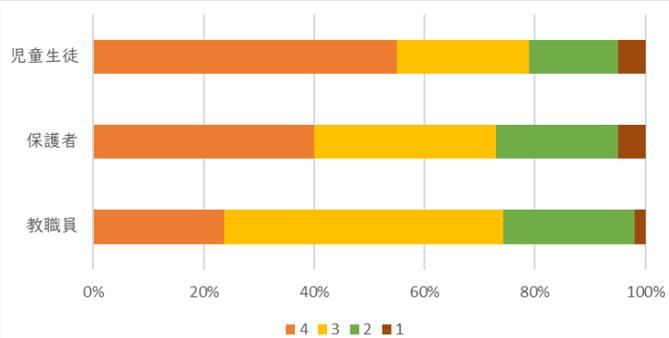
【教職員】 **好き嫌いせず、感謝して給食**を食べようとする態度を育てている。



【児童生徒】 **外遊び・スポーツ**などで、体をよく動かしている。

【保護者】 子どもは、**外遊び・スポーツ**などで、体をよく動かしている。

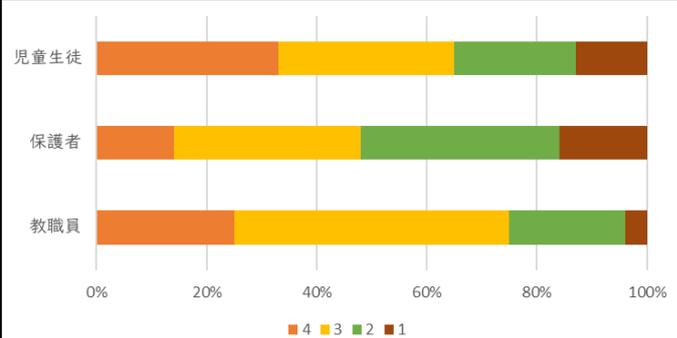
【教職員】 **外遊び・スポーツ**などで、体をよく動かすように働きかけている。

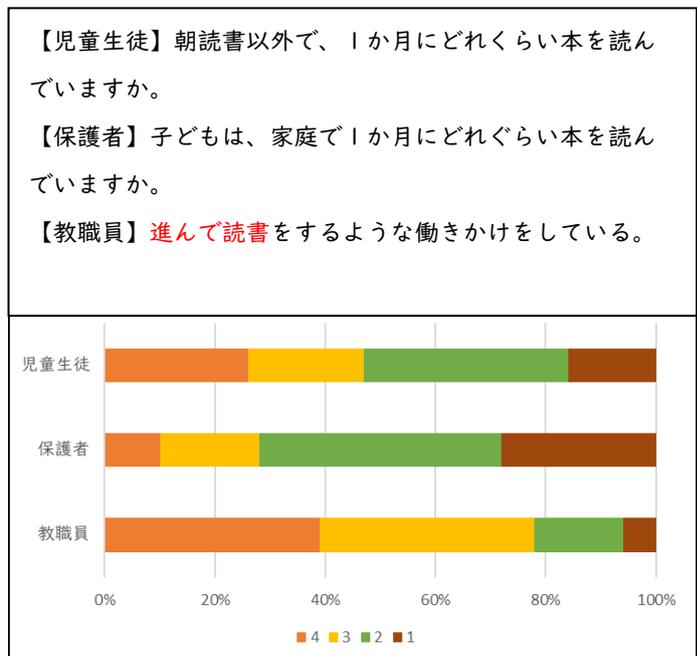
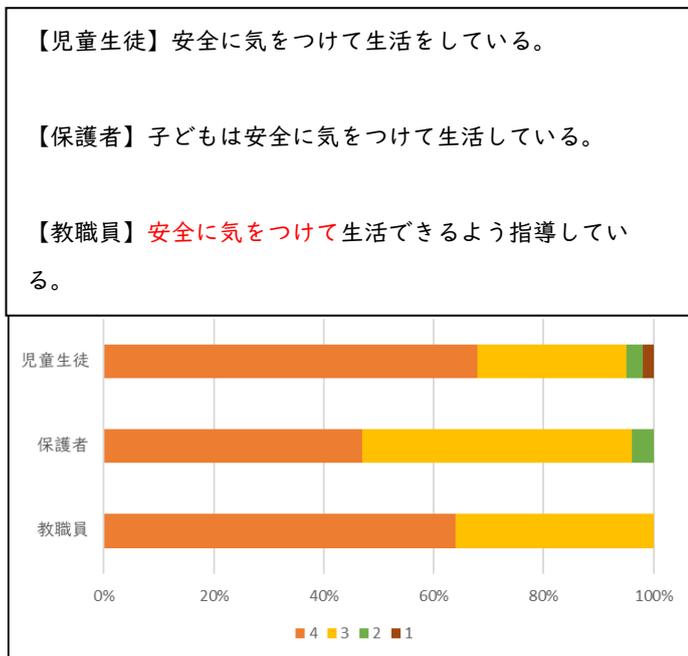


【児童生徒】 **テレビやゲーム、スマホ**などの時間が長くないようにしている。

【保護者】 子どもは、**テレビやゲーム、スマホ**などの時間が長くないようにしている。

【教職員】 **テレビやゲーム、スマホ**などの時間が長くないように働きかけている。





令和5年度後期学校評価アンケートの結果分析

本年度の単年度目標は、

- 課題意識を持ち、学び合い、協働して高め合う姿
- 時と場に応じて正しく判断し、行動する姿
- 多様な価値観を認め、互いに尊重し、助け合う姿

以上3つの姿の実現です。

○ 課題意識を持ち、学び合い、協働して高め合う姿について…

前期に最も課題であった児童生徒の読書の項目で6ポイント到達度の改善がみられました。積極的にメディアセンターを活用し様々な本に触れることができるようにしたり、図書委員長発案で学級文庫を充実させたりするなど、読書に親しめるよう取組を進めてきたためであると考えます。一方前期よりも到達度が下がったのは、児童生徒と保護者の「おたより帳やスケジュール帳を使って自分で計画的・主体的に学習を進める」項目でした。書く時間が足りなかったり、使いにくい部分があったりし、放課後の予定の管理や生活・学習習慣の改善にうまくつなげられない児童生徒もいたようです。今後、よりよい生活や学習習慣を身につけるといった目的意識をもって、おたより帳やスケジュール帳を活用できるように改善していく必要があると考えます。

○ 時と場に応じて正しく判断し、行動する姿について…

到達度が9割を超えている項目は児童生徒の「タブレット端末などで、インターネットを使うときのルールを知っている。」や「安全に気をつけて生活している。」「学校や社会のマナーを守っている。」の項目でした。一方、保護者のアンケートでは、「タブレット端末などで、インターネットを使うときのルールを知っている。」の項目で前期より5ポイントも下がっていました。学校では、情報モラル教育を進めるとともに、日々の学習の中でメディアリテラシーの向上を図っていますが、児童生徒の身の回りには、タブレット端末だけではなく様々な機器でインターネットを利用する機会が増えています。とりわけ、SNSについてのトラブルは見えにくく、気付いた時には大きな問題になっていることがあります。場合によっては、学校だけでは対応できず警察の協力が必要な場合も出てきます。今後益々、家庭と連携

しながら、児童生徒がインターネットを使うときのルールを理解し、正しく判断行動できるようにしていく必要があると考えています。

○多様な価値観を認め、互いに尊重し、助け合う姿について…

前期から4ポイント改善が見られたのは児童生徒の「人のいやがることをしたり、悪口をいったりしてない。」の項目です。教職員の同項目では6ポイント増加しており、よりよい人間関係を築けるように粘り強く取り組みを行ってきた成果が表れてきています。しかし、今後も様々な場面で友だち同士のトラブルが起こると考えられます。互いを認め合い、尊重し、助け合える姿を目指して取り組みを進めてまいります。また、教職員のポイントが前期から11ポイントも上がったのが「子どものよさを積極的に見つけ、褒めたり認める声をかけたりする」の項目です。教職員が一丸となって、児童生徒の多様性を認め、一人一人のよさを伸ばす教育を推進できるよう今後も尽力いたします。

保護者自由記述欄にお寄せいただきましたご意見より（表現の一部を修正・省略しています。ご容赦ください。）

教科担任制で先生方のゆとりが増えておられるように感じる。それぞれの先生方にしっかりと授業をしていただけて、とてもよい取り組みだと子どもに伝えている。

宿題の分量が多いように感じる。多すぎると子どもの集中力がなくなり、身につかないのではないか。

毎日忙しそうだが充実していて楽しそう。ただ、本人の自己肯定感が周りが思っているより少し低いのが心配。自分の良いところもお友だちのよいところもみつけられる子になってほしい。

スマホの使い方について、厳しく注意をしても時間を守らなで困っている。

人を傷つける言葉が当たり前にならないように指導してほしい。みんなが気持ちよく登校できる環境をお願いしたい。

学年が上がるにつれてやる気を引き出す声かけが必要だと思う。塾に行かず学校での学習だけで志望校に合格できるように取り組んでほしい。

友だち同士のトラブルについて、子どもが相談したらすぐ対応していただき問題が落ち着いた。いじめのアンケートや子どもからの訴えなど、何らかのヘルプを出している時には、子どもたちの気持ちに耳を傾けてしっかり対応することが大事。

学校運営協議会理事の皆様のご意見より（表現の一部を修正・省略しています。ご容赦ください。）

子ども同士仲良くする姿をよく見る。様々な場面で、たてわりで上級生が下級生をリードする姿みられるとよい。

SNSのトラブルから子どもを守るために、親も関心をもっていくことが大事。（携帯の電話の電源を親が自動で消すこともできる。）

様々な本を紹介すると子どもたちが本を借りたくなる様子が見られる。読書に親しむ子が増えていてよいことだ。

子どもに、大人がポジティブに見ているということが伝わるようにしていくことが大事。

教職員には自身の心と体の健康を守ってほしい。心と体に余裕がないと、自他ともに優しくできないのではないか。